

# 言心先生の「中国便り」

## 戦後秩序の破壊者

最近、中国は世界各国で日本の攻撃キャンペーンを開いている。それによれば、日本の最も大きな罪は、第二次世界大戦後世界の秩序を壊している事であるとしている。中国駐各国の外交官を動員して、展開しているキャンペーンの効果は非常に限定的で、原因は世界各国の人々の歴史に対する記憶力が衰えていないからである。攻撃された国はこの罪に当たらないが、攻撃している国の方は、罪に当たるかもしれない。

戦後間もない五十年代の初め、中国は韓国に侵攻した北朝鮮側に立ち、解放軍を朝鮮領土に派遣し、連合国17カ国の軍隊と戦争した。この戦後で一番大規模な戦争が数年間続いた結果、双方とも約百万人が死傷した。

六十年代の初め、中国は領土問題の

紛争で隣国のインドと戦争した。

六十年代の末、中国は一番親密な同盟国の旧ソ連と共産主義理論の論争と領土問題の紛争が原因で、中ソの国境で軍事衝突した。

1974年、中国海軍と南ベトナム海軍は、南海諸島で衝突した。

七十年代の末、中国の盟友のカンボジアのポル・ポト政権は、国内で残酷な虐殺を起こした。ベトナム軍がこれを制止するため、カンボジアに進攻した。中国は無道なポル・ポト政権を助ける為、五十万人以上の兵士をベトナムに進攻させた。この戦争で、双方とも数万人の死

傷が出た。

1945年の第二次世界大戦の終結からほぼ70年間で、中国以外に二十以上の国と戦争した国は存在するのか？ 筆者はちよつと不勉強で、存じ上げないでいる。

当然、外国との戦争だけではなく、戦後では中国国内の戦争、鎮圧、虐殺等も数えきれない。第二次世界大戦直後、共産党と国民党の内戦が発生し、平和を望んでいた中国の国民に大きな犠牲をもたらした。共産党政権が成立した五十年代、ウイグルとチベット地域に軍隊を進攻させ、少数民族の人々に大きな犠牲と苦難をもたらした。

勿論、他の国を批判し、攻撃するキャンペーンを行うのは自由である。しかし、もし、中国が第二の経済大国の地位を自覚しているのであれば、まず、今まで起こした戦争の経緯を公の場で説明し、もし自己の責任があるならば、真面目に清算と謝罪をしてから、日本或いは他の国の批判キャンペーンを展開するのが、筋ではなからうか。

見方いろいろ・世界から「中国より」

